

ケアハウス居住者に実施した体操プログラムの継続的参加に関連する要因の検討

トンプソン雅子¹⁾、太田暁美²⁾、渡邊恵¹⁾、李恩兒³⁾、宮地正弘³⁾、秋山由里⁴⁾、中村好男⁴⁾

¹⁾早稲田大学大学院人間科学研究科

²⁾大阪電気通信大学医療福祉工学部

³⁾早稲田大学大学院スポーツ科学研究科

⁴⁾早稲田大学スポーツ科学学術院

キーワード：ケアハウス居住者、居住期間、継続的参加

抄 録

本研究の目的は、ケアハウス居住者の体操プログラムの継続的な参加に影響する要因を検討することだった。対象者は、ケアハウスに居住する年齢 60 歳以上の男女 80 名のうち 28 ヶ月のプログラムに参加した 38 名を研究対象とした。28 ヶ月間の体操プログラムの継続的参加に関連する要因を検討するために、体操参加回数を従属変数とし、ベースラインの性、年齢、BMI、介護度、居住期間、サークル活動の有無、握力、開眼片足立ち、5m 歩行、老研式活動能力指標、PCS、MCS を独立変数として、スピアマンの順位相関係数を用いて分析を行なった。参加回数に対して有意だった変数は、居住年数 (-0.361, $p < 0.05$) であった。結果から、居住年数の短い者が継続的参加に影響する要因である可能性が示唆された。

スポーツ科学研究, 5, 137-143, 2008 年, 受付日: 2007 年 10 月 3 日, 受理日: 2008 年 6 月 16 日

連絡先: トンプソン雅子 早稲田大学人間科学研究科体力科学研究室 359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15

TEL: 04-2947-6829 E-mail: masakoth@hotmail.com